

みなさまこんにちは

ご紹介いただきました神奈川県知事の松沢成文でございます。本日は各界からこのように多数の方々をご参集になる中、エコループプロジェクトの事業報告会が盛大に開催されますことを心からお喜びを申し上げます。

このたびの事業化構想の提案は、近藤会長や、岡崎理事長をはじめ、NPO環境テクノロジーセンターの皆様が廃棄物対策に注いでこられました並々ならぬ熱意とご尽力のたまものと深く敬意を表します。本日のご提案は神奈川県内を対象にしたものと伺い、私も大きな期待感を持って出席させていただいた次第であります。

さて、廃棄物問題は日常生活や日頃の事業活動に伴う、環境負荷があまりにも大きくなったために生じたものであり、まさに緊急に取り組まなければならない課題であります。根本的な解決をはかっていくためには、これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄型のシステムやライフスタイルを見直し、環境への負荷を少なくしていくことが必要であります。特に神奈川では、国土の0.6%という狭い県土に860万の県民が生活しており、全国第2位の製造品出荷額をあげるなど、産業活動も活発に行われております。全国有数の都市化過密化が進んだ地域であることから、最終処分場の逼迫など廃棄物問題は、よりいっそう深刻な課題となっております。

そのため、他の都道府県にもまして、廃棄物の発生抑制や、資源化といった循環型社会の形成に向けた取り組みが大変重要になっております。こうした認識に立って神奈川県では岡崎理事長が知事をされてた平成14年3月に廃棄物県内処理100%を基本目標とする神奈川県廃棄物処理計画を策定致しました。そしてこの計画に沿って、循環型社会の形成に向け、県民、事業者、市町村のみなさんと共にリデュース、リユース、リサイクルの3Rを基本とする、総合的な思索を展開しております。

また、現在策定を進めております、新たな総合計画の中でも、廃棄物の発生抑制、資源化、適正処理の推進、そして不法投棄の防止対策の促進という二つのプロジェクトを位置づけ、重点的、優先的に取り組みを進めてまいりたいと考えております。こうした県の取り組みに、環境テクノロジーセンターの皆様には、これまでにも多大なご協力をいただいております。まず平成13年3月に神奈川県廃棄物処理対策全体構想をとりまとめた際には、環境テクノロジーセンターの前身とも言える、環境技術研究会の方々に大変お世話になりました。現在はその研究成果を引き継ぐ形で環境テクノロジーセンターを中心に神奈川県の西部地域を研究フィールドとする100万人リサイクル地域モデル

研究を行っていただいとところでございます。

本日はこうした研究成果を生かされ、さらに一歩進めて公共性の高い廃棄物の総合的な処理システムを民間の手で具現化しようとする画期的な事業化構想の提案が行われます。神奈川県としては廃棄物県内処理100%の実現に向けた有力な動きとして心から歓迎をしたいと存じます。

本日の提案が実際に廃棄物処理に当たっている市町村をはじめ、多くの関係者のご理解やご支援を得て、着実に目的の達成に向けて進まれますことを祈念致しまして私の挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。